春

早春の大平山。まだところどころに雪が残っています。
雪の融けたばかりの斜面では、カタクリがまず咲きだします。フキノトウも芽を出しています。

木々の葉が開く前、林床には多くの花が咲き、虫たちが活発に動き始めます。

このように、雪国の森では、雪解けから木々の葉が茂るまでの短い期間を有効に使って、花を咲かせ、種子をつくる植物が多数生育しているのが特徴です。

カスミザクラ

田の苗もそろそろ大きくなり、セミの声もにぎやかです。
森の中にも、水の中でも、多くの生き物が活発に動いています。

水路をのぞいてみましょう。大平山の水路やため池の多くにはメダカが泳いでいます。
水路の中にはゲンゴロウやガムシ、ミズカマキリ、マツモムシなど肉食の昆虫類が多くみられます。これはそれだけ多くの動物（昆虫や魚類など）が生きていることを示しています。

トノサマガエルが顔を出しました。トノサマガエルは田んぼの周りで生きています。
田んぼは水が温められて多くのプランクトンや虫が生育するため、それを食べる虫や動物が多数みられます。山から流れてくる水は冷たく、田んぼの水は暖かい。そんな違いも実感してみましょう。

ため池の中に、鰓（えら）の飛び出したオタマジャクシがたくさん見られます。これはサンショウウオの幼生です。サンショウウオの幼生は前足から先に出ます。
ため池のサンショウウオのほとんどはクロサンショウウオです。
水路の中には、普通のオタマジャクシがたくさんみられます。カエルのオタマジャクシは鰓が見えません。後足から先に出ます。オタマジャクシの種類をあてるのは難しいです。

林道沿いには夏の花が見られます。薄暗いところ、明るいところ、それぞれに花が違います。

トンボも種類によって生息する環境が違います。どんなところに、どんな種類がいるか気をつけて観察しましょう。

←道端のマーガレット（フランスギク）にベニシジミが訪れています。

農家の人たちが田んぼや畑の周りにきれいな花を植えたのでしょう。園芸品やきれいな花が田んぼや畑のまわりにはたくさん咲いています。

秋

2012.11.18. 大平山十ヶ坂ため池付近より

秋の爽やかな空気の中、大平山の山頂まで登ってみましょう。新潟平野と弥彦山を眺めてみましょう。ありふれた表現ですが、刈取りを待つ稲穂が黄金の絨毯のようです。山の木々も美しく色づき、訪れた人の目を楽しませてくれます。

秋のたのしみはキノコでしょうか。しかし、キノコは毒のあるものが多いので、確実にわかるもの以外は食べないように気をつけましょう。また、いままで食べられたものがある時から毒性をもつなどということもありますから、保健所などの情報にも注意しましょう。

造形を楽しむには毒キノコであっても十分に楽しめます。不思議な形状のものがたくさんあります。キノコは地中に膨大な菌類の生育の結果といいます。山の環境の指標となるものかもしれません。

シロオニタケ　毒

アシナガイグチ

コテングタケモドキ　毒

秋には様々な植物が花を咲かせ実をつけ、それが山の動物の貴重な栄養源になります。実の中にはナツハゼの様に食べられるものもあります。散策のおやつにちょうどいいかもしれません。

ヤマウルシの実は栄養豊富だということですが、まずいらしくて鳥はなかなか食べに来ません。

冬になって他の植物の実が無くなった頃、木に残っているウルシの実を鳥が食べにきます。

競争相手のいないときに集中的に食べてもらえるように工夫しているのでしょう。そして種は鳥のフンとともに散布されることになります。

冬

冬の栃尾は雪で埋まっています。生物の姿はなかなか見られないと思われるかもしれませんが、実はそんなことはありません。冬こそ多くの動物、植物がその生命力を発揮して、厳しい環境の中を乗り切る姿を見ることができます。 また、スキーやスノーシューなど冬ならではの楽しみもあります。防寒対策をしっかりとして、冬の大平山をのぞきに行きましょう。

この2枚の写真は実は別の場所で自動カメラにより撮影されたものですが、大平山でも夜になるとこのような動物たちが活発に動いています。

※ノウサギと飼いウサギの見分け方。

野生のノウサギとペットの飼いウサギの違いはいくつかあります。野生のノウサギの冬毛は白いですが夏は茶褐色をしています。また、耳の先に黒い毛があり、目も黒いのが普通です。それに対し、飼いウサギはアルビノなので全身が白く、目も赤いです。(アルビノ:黒い色素を作れない突然変異)

右の写真は光の反射で目が赤く見えますが、耳の先は黒く、野生のノウサギであることがわかります。

秋の深まりとともに森の木々が葉を落とします。しかし、なかなか落ちない葉があります。実は、これらの葉の中には蝶の幼虫やいろんな虫が越冬しているのが見られます。

「大平山への誘い」より抜粋

大平山の動植物の一部をご紹介

ナガハシスミレ（スミレ科）

山地の日当たりのよい草地や林のふちなどに普通に見られる多年草。

4月から5月にかけて咲く花の距（花びらの一部が、花の後部に突出したもの）が他のスミレの仲間に比べ、とびぬけて長い（10～20mm）のが特徴です。

主として、青森県から島根県にかけての日本海側に分布する種で、栃尾では、ごく一般的なスミレの1つです。

マキノスミレ（スミレ科）

山野のコナラ林など、春先の明るい林の下に見られる多年草。和名は、牧野富太郎を記念して名づけられたものです。この葉の特徴は、中脈の部分が白く、葉を左右に分ける一条の太い白線となっていることです。

葉は、花が終わると、長さ5cm内外まで大きくなります。

チゴユリ（スズラン科）

低山から深山までの林下に群生する多年草。草丈は、30cm前後で、早春から夏にかけて茎の先に花を1個つけ、白い花は完全に開きます。和名は、「稚児百合」で、その姿が小さく、かわいらしいところからです。

スミレサイシン（スミレ科）

山地のやや湿った林の下などに多い多年草。地下茎は太く、横に長く這います。4月から6月頃にかけて、地下茎から葉と花をいっしょに出し、普通葉が開ききらない状態で花が開きます。葉はハート形で、長さ6～17cmと大きいです。

北海道南部から山陰地方にかけて、降雪量の多い日本海側に分布します。

エンレイソウ（エンレイソウ科）

山地の林内など、やや湿ったところに生える多年草。地下茎は短く、太いです。茎の先に広い卵形の葉が3枚、輪になって付きます。春、葉がのびきらないうちに花柄を1本だし、紫色をおびた緑色の花を1個つけます。

カタクリ（ユリ科）

丘陵地から山地の斜面や、明るい林の中に群生します。根茎は、白色多肉の鱗片状で数個が接して地中深く横たわっています。鱗茎はゆ合して筒状となって根茎の先から直立し、長さ4cm内外です。早春に15cm内外の茎を1本出しますが、下に1対の葉があります。

カスミザクラ（バラ科）

桜の野生種の一種で、名前の由来は、遠くから見たこの樹の様子が、まるで霞のように見えることからきたと言われています。カスミザクラに限らず、桜の仲間は幹の樹皮に横縞の模様があるという特徴があります。

大平山登山の道中には、カスミザクラの巨木を眺めることが出来ます。

クロサンショウウオ（サンショウウオ科）

ため池の中に、鰓（えら）の飛び出したオタマジャクシがたくさん見られます。これはサンショウウオの幼生です。成長するとカエルのオタマジャクシは後足から先に発生しますが、サンショウウオの幼生は前足から先に発生ます。

クロサンショウウオは普段は山の中で暮らしており、産卵期になると水辺に出てきます。

メダカ（メダカ科）

現在ではめっきり姿を見かけなくなったメダカも、大平山の水路やため池の中に目をこらすとたくさん泳いでいる姿が見られます。

そのほか、メダカを餌とする水カマキリやタガメなどの大型の昆虫も生息し、豊かな生態系を形成しています。

トノサマガエル（アカガエル科）

体長 4cm～9cm ほどの大きさで、メスのほうが若干大きいです。かつては日本全国の水田に生息していましたが、近年は生息数が減少しています。

繁殖期は 4～6 月頃で、水面で大きな鳴き声をあげて求愛します。口に入るものなら何でも食べてしまうほど、旺盛な食欲を持ちます。

オニヤンマ（オニヤンマ科）

日本に生息するトンボの中でも最大のトンボで、体長は 10cm ほどあります。きれいな小川周辺を好み、水の中にはヤゴ（幼虫）の姿も見られます。このほかにも、シオカラトンボやアオイトトンボ、ハグロトンボなどの様々な種類のトンボを見ることができます。

アナグマ（イタチ科）

体長 40cm～60cm ほどの中型の哺乳類で、夜行性のため昼間は巣穴の中で寝て過ごします。巣穴は複数の出入口を持ち、50m～100m ほどの長さになります。

人間を見つけると逃げ出してしまう臆病な性格です。もし見つけても怖がらせないように静かに観察しましょう。

ヤマボタルブクロ（キキョウ科）

山地に多く生育する野草で、初夏から夏にかけて白くてかわいらしい釣鐘型の花を咲かせます。

名前については、子供が袋状になっている花の中にホタルを入れて遊んだことに由来するという説と、ちょうちんの昔の呼び名である「火垂る袋（ホタルフクロ）」に由来するという二つの説があります。

オカトラノオ（サクラソウ科）

山野の草原に生育する多年草で、初夏の頃に直径 1cm ほどの白い花を茎の先に咲かせ、その重みで稲穂の様に頭を垂れます。

花穂が風に揺れるその姿が「岡にあって虎の尾」の様に見えることから、この名で呼ばれるようになりました。

ムラサキシキブ（クマツヅラ科）

山地に普通に生える落葉低木で、高さ 2～3m になり、秋になると優雅な紫色の果実をつけます。花は、6～7 月頃咲き、葉の陰に見えかくれしているために目立たないですが、淡い紅紫色をして、果実に劣らぬ優雅さです。木材としては、まっすぐで丈夫なので、箸、げんのうや洋傘の柄、さらには火を起こす錐などにも用いられました。

ユキツバキ（ツバキ科）

本州の日本海側に分布する椿で、和名は雪椿。新潟県の木にも指定されています。

栃尾の山地に自生する椿はすべて本種です。冬は数メートルの積雪に押し倒されながらも、その雪を寒風から守る壁として春を待ちます。逆に雪が少ないと、寒さで枯れてしまうこともあるそうです。

エゴノキ（エゴノキ科）

山野に普通に生える小高木で、栃尾ではヂシャノキとも呼ばれています。果皮にはエゴサポニンという有毒物質が含まれており、これを魚に与えると仮死状態になります。また、この物質は洗濯用としても用いられました。この材はかたく、白色で心材と辺材の区別が無く、しかも粘りけがあるので、ろくろ細工の材料に用いられるそうです。

ケアブラチャン（クスノキ科）

山地の谷間に多い落葉低木。アブラチャンの変種で、日本海側に普通に見られます。栃尾ではクロヂシャと呼び、樹皮や果実に油を多く含みよく燃えるのでたき木としてよく用いたそうです。早春、まだ雪が消え残る山肌に、葉に先がけて枝いっぱいに黄色の花をつけます。

ガマズミ（スイカズラ科）

山野に普通に見られる落葉低木で、人々の生活に古くから係わりを持ってきたと言われます。春も深まる 5～6 月頃、緑に映える小さな白い花をたくさん集め、秋には果実が赤く熟します。この果実は晩秋の頃甘酸っぱくなって食べられます。古くは実を染料に用いたそうです。果実酒にしたり、漬物の中に入れればきれいな色を楽しむことができます。その材は柔軟性があって強く、道具の柄にしたり、かんじきの材料にしたり、薪をしばるのに使いました。しなりが強く折れづらいのは、雪の重みでも折れないという、雪国の樹木の特徴です。

ツリフネソウ（ツリフネソウ科）

山野の湿地に普通に生える 1 年草。7 月頃から 9 月頃にかけて径 3cm くらいの花を咲かせます。船を吊り上げたようなその花の様子から、名がつけられました。 果実は細長く、熟したものにさわるといきおいよく割れて、種子をはじき出します。

ヒラタケ（ヒラタケ科）

広葉樹の枯れ木に、春から晩秋のかけて生えるキノコ。美味しいので栽培もされ、シメジの名で売られることもあるそうです。

サルノコシカケ（サルノコシカケ科）

サルノコシカケ科のキノコの総称。一般に多年生で樹幹に寄生し、半円形の卓上に広がり、木を腐らせます。乾いたものは非常に堅く、観賞用・細工品・薬用などに利用されます。

ツルアリドオシ（アカネ科）

アリをも刺し通す鋭い針を持つという小低木アリドオシに外見がよく似ているつる植物という意味でつけられた和名です。初夏の頃、枝先に長さ 15mm 程の白い筒状の花を 2 個ずつつけますが、2 つの子房はゆ合しています。従って、赤く熟した果実の先端に 2 個あるくぼみは、それぞれのがくのなごりです。

花には、2 つの型があり、ひとつは雌しべの先が長く突き出るものであり、もうひとつは雌しべが短く雄しべの長い型です。

ヒメアオキ（ミズキ科）

北海道及び本州の日本海側に分布する常緑の低木。表日本型のアオキの変種で、積雪に適した型と言われ、アオキより小型で葉の柄・裏、若枝などに微毛があります。雌雄異株です。

スカシダワラ

昆虫クスサン（ヤママユガ科の蛾）の繭。長さ 5cm ほどの粗い網目状で、俵のような形をしていることから、透かし俵（スカシダワラ）と呼ばれます。

タヌキ（イヌ科）

体長 50cm～60cm ほどの中型の哺乳類で雑食性。夫婦になると片方が死ぬまでペアは解消されないと言われます。50 ヘクタールほどの活動範囲をもちますが、特に決まった縄張りは持たないようです。

非常に憶病な性格で、猟師の鉄砲の音に驚いて当っていないのに気絶してしまうほどです。「タヌキ寝入り」の語源にもなっています。

ノウサギ（ウサギ科）

体長 50cm ほどの中型の哺乳類で草を主食としますが、食料の少ない冬は樹皮をかじることもあります。冬毛は白いですが、夏は茶褐色をしています。また、耳の先に黒い毛があり、目も黒いのが普通です。

一般的な飼いウサギの全身が白く目が赤いのは、アルビノであるためです。（写真のウサギの目はカメラのフラッシュで赤く見えています）

昆虫の越冬

秋の深まりとともに森の木々が葉を落とします。しかし、なかなか落ちない葉があります。実は、これらの葉の中には蝶の幼虫やいろんな虫が越冬しているのが見られます。写真の葉も、開いてみると繭状になって越冬している虫の姿が見えます。

この他にも様々な生き物が暮らしています